

「文武共存」実践へ生徒奮闘

「文武共存」を校是に掲げる駿台甲府高(甲府市塩部2丁目、酒井徹哉校長)、駿台甲府中(甲府市上今井町、河崎哲郎校長)では5~6月、スポーツの各種大会や文化祭に生徒が力を合わせ、汗を流し、友との絆を深めた。駿高ハンドボール部男女が全国高校総合体育大会(インターハイ)へアベック出場を決めたほか、県高校総合体育大会では女子総合が過去最高の5位に入賞。駿中でも野球部が軟式野球の県選抜大会で初の準優勝を飾る快進撃を見せた。その原動力は、駿台生たちの心に芽生えたチャレンジング・スピリットだった。

今春、8人の東京大合格者をはじめ国公立大、難関私立大への進学者を多数輩出した駿高。創立35周年を迎え、進学校としての存在を確立した。一方で、ハンドボール男子がインターハイ22年連続出場を決めたほか、県高校総体で卓球男子が3位入り11年ぶりの上位入賞を果たし、バスケットボール男女も悲願の1勝を挙げた。今年は常勝競技だけでなく、さまざまな運動部が奮闘している。

「駿高の魅力は、勉強だけでなく部活動も頑張れる環境があること。両方頑張りたいという、志の高い最高の仲間がいました。笑顔でそう話すのは卓球男子の芦澤輝彦主将(3年)だ。県総体では、仲間の応援を力に、選手一人一人が強く挑み、勝利を引き寄せ関東大会にも出場した。

部員は1~3年生合わせて13人。芦澤主将の入学時に7人いた同級生は2年時の県総体を機に引退し、以来、芦澤主将は唯一の先輩としてチームをけん引してきた。

県高校総体 男子卓球3位、女子総合は5位 挑戦心 スポーツでも発揮

「文武共存」は駿中にも浸透。中学生を大いに刺激している。昨年12月にプロスケ野球部が誕生、5月には久也主将を中心に結んだ野球部が軟式野球の県選抜大会で初めて準優勝したほか、ハンドボール部やテニス部なども活躍した。

昨夏、駿高野球部が全国高校選手権山梨大会で19年ぶりのベスト4に進出。その快進撃は駿中にも伝播している。4月からは新たに内藤伯哉選手が監督となり、技術はもとより、教諭が監督となり、技術はもとより、これまでに走り込みなどの基礎練習も加え、体力アップを図ってきた。2回戦から登場。両宮主将の粘りと好守で勝ち上がり準決勝に進むと、2点を追う6回に粘りを見せて逆転勝利。決勝は力尽きたものの、公式戦がなかっただけに、今は一戦一戦が大事で楽しいです。兄弟ともに駿高出身。8歳上の兄は野球部で県ベスト8、5

行いが、専用練習場はなく、監督は卓球未経験者。しかし、芦澤主将は「先生は必ず練習に足を運んでくれますし、集まった先輩たちは競技経験の有無に関係なく卓球が好きでした。強いチームのビデオを見て研究したり、互いに注意し合ったりと、切磋琢磨してきました」と振り返る。

団体戦とはいえ個人競技でもある卓球。芦澤主将を支え、2年のエースに成長した内田涼介さんは「関東大会に出場し、世界観が広がりました。やるからには悔いを残さないよう努力しています」と、帰宅後の自主練習も欠かさない。

全国高校3冠の実績を持つ父親の影響で小学1年時から競技を始めた。高校進学後は、早朝5時半に起床し、父親と基礎トレーニングを重ね、学校での朝練習や部活後のクラブチームなども腕を磨いている。

一方で、「卓球を続けるためには勉強をおろそかにしないことが親との約束」と、練習と勉強の時間配分を考え、深夜まで勉強することも少なくないという。

本年度からスタートした文理合同高習熟度クラスの萩原哲史さん(2年)もレギュラーの一人。競技を始めたのは山梨大付属中時代で、高校進学後に競技を辞めるという選択はなかったという。

「何かのために何かを犠牲にすることは、駿高を選んだ決め手。学校の授業はもちろん、母体の駿台予備学校の有名な講師が駿高へ来て授業をしてくれたり、放課後に先生方が講習を開いたり、常に全力で頑張りたいです」と目を輝かせた。

部員は1~3年生合わせて22人。駿高野球部出身者もいて、3人がレギュラー入りしている。両宮主将の女房役としてリードする勝俣修馬捕手(3年)もその一人で、「小学校時代は公式戦がなかっただけに、今は一戦一戦が大事で楽しいです。兄弟ともに駿高出身。8歳上の兄は野球部で県ベスト8、5

「文武共存」は駿中にも浸透。中学生を大いに刺激している。昨年12月にプロスケ野球部が誕生、5月には久也主将を中心に結んだ野球部が軟式野球の県選抜大会で初めて準優勝したほか、ハンドボール部やテニス部なども活躍した。

昨夏、駿高野球部が全国高校選手権山梨大会で19年ぶりのベスト4に進出。その快進撃は駿中にも伝播している。4月からは新たに内藤伯哉選手が監督となり、技術はもとより、教諭が監督となり、技術はもとより、これまでに走り込みなどの基礎練習も加え、体力アップを図ってきた。2回戦から登場。両宮主将の粘りと好守で勝ち上がり準決勝に進むと、2点を追う6回に粘りを見せて逆転勝利。決勝は力尽きたものの、公式戦がなかっただけに、今は一戦一戦が大事で楽しいです。兄弟ともに駿高出身。8歳上の兄は野球部で県ベスト8、5

「文武共存」は駿中にも浸透。中学生を大いに刺激している。昨年12月にプロスケ野球部が誕生、5月には久也主将を中心に結んだ野球部が軟式野球の県選抜大会で初めて準優勝したほか、ハンドボール部やテニス部なども活躍した。

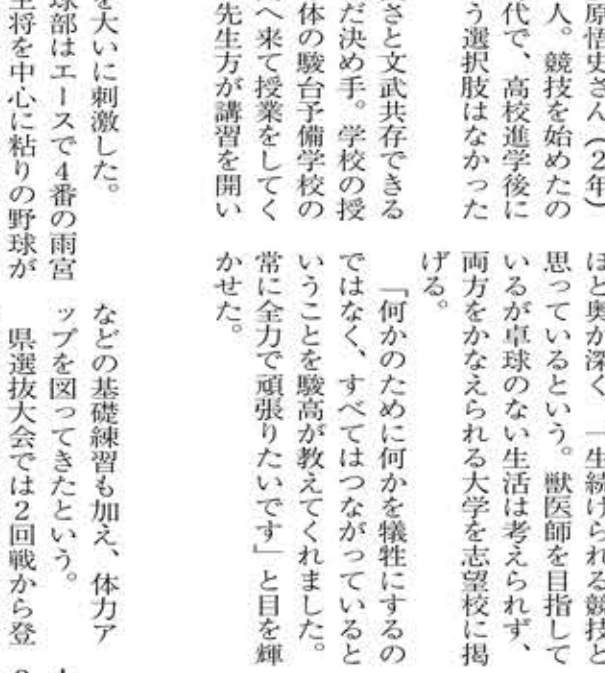
昨夏、駿高野球部が全国高校選手権山梨大会で19年ぶりのベスト4に進出。その快進撃は駿中にも伝播している。4月からは新たに内藤伯哉選手が監督となり、技術はもとより、教諭が監督となり、技術はもとより、これまでに走り込みなどの基礎練習も加え、体力アップを図ってきた。2回戦から登場。両宮主将の粘りと好守で勝ち上がり準決勝に進むと、2点を追う6回に粘りを見せて逆転勝利。決勝は力尽きたものの、公式戦がなかっただけに、今は一戦一戦が大事で楽しいです。兄弟ともに駿高出身。8歳上の兄は野球部で県ベスト8、5

「文武共存」は駿中にも浸透。中学生を大いに刺激している。昨年12月にプロスケ野球部が誕生、5月には久也主将を中心に結んだ野球部が軟式野球の県選抜大会で初めて準優勝したほか、ハンドボール部やテニス部なども活躍した。

昨夏、駿高野球部が全国高校選手権山梨大会で19年ぶりのベスト4に進出。その快進撃は駿中にも伝播している。4月からは新たに内藤伯哉選手が監督となり、技術はもとより、教諭が監督となり、技術はもとより、これまでに走り込みなどの基礎練習も加え、体力アップを図ってきた。2回戦から登場。両宮主将の粘りと好守で勝ち上がり準決勝に進むと、2点を追う6回に粘りを見せて逆転勝利。決勝は力尽きたものの、公式戦がなかっただけに、今は一戦一戦が大事で楽しいです。兄弟ともに駿高出身。8歳上の兄は野球部で県ベスト8、5

「文武共存」は駿中にも浸透。中学生を大いに刺激している。昨年12月にプロスケ野球部が誕生、5月には久也主将を中心に結んだ野球部が軟式野球の県選抜大会で初めて準優勝したほか、ハンドボール部やテニス部なども活躍した。

昨夏、駿高野球部が全国高校選手権山梨大会で19年ぶりのベスト4に進出。その快進撃は駿中にも伝播している。4月からは新たに内藤伯哉選手が監督となり、技術はもとより、教諭が監督となり、技術はもとより、これまでに走り込みなどの基礎練習も加え、体力アップを図ってきた。2回戦から登場。両宮主将の粘りと好守で勝ち上がり準決勝に進むと、2点を追う6回に粘りを見せて逆転勝利。決勝は力尽きたものの、公式戦がなかっただけに、今は一戦一戦が大事で楽しいです。兄弟ともに駿高出身。8歳上の兄は野球部で県ベスト8、5



チーム一丸で快進撃

中学選抜野球部、初の準優勝

「文武共存」は駿中にも浸透。中学生を大いに刺激している。昨年12月にプロスケ野球部が誕生、5月には久也主将を中心に結んだ野球部が軟式野球の県選抜大会で初めて準優勝したほか、ハンドボール部やテニス部なども活躍した。

昨夏、駿高野球部が全国高校選手権山梨大会で19年ぶりのベスト4に進出。その快進撃は駿中にも伝播している。4月からは新たに内藤伯哉選手が監督となり、技術はもとより、教諭が監督となり、技術はもとより、これまでに走り込みなどの基礎練習も加え、体力アップを図ってきた。2回戦から登場。両宮主将の粘りと好守で勝ち上がり準決勝に進むと、2点を追う6回に粘りを見せて逆転勝利。決勝は力尽きたものの、公式戦がなかっただけに、今は一戦一戦が大事で楽しいです。兄弟ともに駿高出身。8歳上の兄は野球部で県ベスト8、5

「文武共存」は駿中にも浸透。中学生を大いに刺激している。昨年12月にプロスケ野球部が誕生、5月には久也主将を中心に結んだ野球部が軟式野球の県選抜大会で初めて準優勝したほか、ハンドボール部やテニス部なども活躍した。

昨夏、駿高野球部が全国高校選手権山梨大会で19年ぶりのベスト4に進出。その快進撃は駿中にも伝播している。4月からは新たに内藤伯哉選手が監督となり、技術はもとより、教諭が監督となり、技術はもとより、これまでに走り込みなどの基礎練習も加え、体力アップを図ってきた。2回戦から登場。両宮主将の粘りと好守で勝ち上がり準決勝に進むと、2点を追う6回に粘りを見せて逆転勝利。決勝は力尽きたものの、公式戦がなかっただけに、今は一戦一戦が大事で楽しいです。兄弟ともに駿高出身。8歳上の兄は野球部で県ベスト8、5

駿高祭 会場から歓声 パフォーマンス大会 3年B組とE組優勝

駿高学園祭「駿高祭」が19、20の両日、開かれた。甲府・コラーニ文化ホールを会場にしたクラスパフォーマンス大会では、3年B組と3年E組が総合優勝を分け合った。

場内を大いに沸かせたのが3年B組だ。映画仕立ての導入で、次々に消えた仲間を写し、書簡に探して行くという演出が、観る者に強い印象を残した。同時に会場後方から「ロゾロ」とゾンビの生徒が登場。あちこちから悲鳴にも似た歓声が上がった。実行委員を務めた福田康平さんと加茂典典さんは「狙い通り。つかみと喜びでいっぱいでした」と最高の思い出を強調した。

これからは受験勉強に突入する。「第一志望は譲れないだけに、気持ちを切り替え全力を尽くします」と決意を新たにしていた。



「文武共存」は駿中にも浸透。中学生を大いに刺激している。昨年12月にプロスケ野球部が誕生、5月には久也主将を中心に結んだ野球部が軟式野球の県選抜大会で初めて準優勝したほか、ハンドボール部やテニス部なども活躍した。

昨夏、駿高野球部が全国高校選手権山梨大会で19年ぶりのベスト4に進出。その快進撃は駿中にも伝播している。4月からは新たに内藤伯哉選手が監督となり、技術はもとより、教諭が監督となり、技術はもとより、これまでに走り込みなどの基礎練習も加え、体力アップを図ってきた。2回戦から登場。両宮主将の粘りと好守で勝ち上がり準決勝に進むと、2点を追う6回に粘りを見せて逆転勝利。決勝は力尽きたものの、公式戦がなかっただけに、今は一戦一戦が大事で楽しいです。兄弟ともに駿高出身。8歳上の兄は野球部で県ベスト8、5

「オール駿台」で完全サポートします!!

6月29日(日) 10:00~14:00
学校説明会 学校説明・校内案内・入試概要説明など
 (午前、午後同一内容) (中学生・保護者対象) ※個別相談も承ります。

7月12日(土) 9:00~
学校説明会
 <小学6年生・保護者対象>
 ※入試要項をお配りします。
 ※個別相談も承ります。

7月5日(土) 9:00~
公開授業
 (未就学児・保護者・近隣市民・保護者関係者対象)
 ※個別相談も承ります。

6月29日(日)
大運動会(宝ひり)
 未就学児を対象に
 小遊スポーツ公園補助競技場で行います。
 ※参加自由 10:30までにお集まりください。

駿台甲府高等学校
 普通科(塩部キャンパス)
 〒400-0026 山梨県甲府市塩部2丁目8-1
 TEL055-253-6211 FAX055-252-5395
<http://www.sundai-kofu.ed.jp/>

美術デザイン科(今井キャンパス)
 〒400-0845 山梨県甲府市上今井町1279-2
 TEL055-241-5311 FAX055-241-8304
<http://www.sundai-kofu.ed.jp/bizyutsu/>

駿台甲府中学校
 〒400-0845 山梨県甲府市上今井町884-1
 TEL055-243-5200 FAX055-243-5202
<http://www.sundai-kofu.ed.jp/junior/>

駿台甲府小学校
 〒400-0845 山梨県甲府市上今井町884-1
 TEL055-243-5200 FAX055-243-5202
<http://www.sundai-kofu.ed.jp/elementary/>